

| |
|--|
| 1 学校教育目標 |
| 「県立高等学校における教育指導の重点」及び「人権教育取組の方向」等を基盤に据え、本校の校訓「正大・剛健・寛厚」のもと、豊かな人間性を持つ「地球(知究)市民」の育成を目指す。 |

| |
|---|
| 2 本年度の重点目標 |
| (1) 互いの人権を尊重しあう心の教育の充実 (2) 基本的生活習慣の確立と社会規範意識の醸成(生徒指導の充実) (3) 進路意識の高揚と進路目標の早期確立(進路指導の充実) (4) “生きる力”としての基礎学力の定着(授業の充実・教科指導力の向上) (5) 生命を尊重し、安全や健康に高い意識と行動力を持った生徒の育成(健康・安全教育の充実) (6) 特別支援教育及びインクルーシブ教育の充実 (7) 学校の魅力づくりとその情報発信による入学者数の増 (8) 学校における働き方改革 |

A : 十分達成できている B : おおむね達成できている C : やや不十分である D : 不十分である

| 3 自己評価総括表 | | | | | | |
|-----------|-----------------|----------------------------------|---|--|----|--|
| 評価項目 | | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
| 大項目 | 小項目 | | | | | |
| 学校経営 | 魅力ある学校づくりに取り組む。 | ・本校の教育目標、教育活動を地域に発信し、志願者増を図られたか。 | ・体験入学の参加者数50人以上を目指す。 ・志願者数15人以上を目指す。 | ・体験入学のポスターを配付し各中学校の校内に掲示してもらう。また、中学校1～3年生までの参加を募る。 ・中学校の高校説明会で、直接又は動画で在校生による発表を行う。 | B | ・体験入学の案内と併せて自作のポスターを3枚ずつ送付。体験入学申込者数は中学校1～3年生合わせて72人(内、倉岳中学校外15人)。当日の参加者62人。事後アンケートでは、約67%が倉岳校に進学してみたいと肯定的な回答。 ・出席した12の中学校の高校説明会の中で、在校生による発表の代わりにTKU『若っ人ランド』作成の学校紹介動画を上映。また熊本県高等学校オンライン説明会に参加し、昨年度作成した学校紹介動画を配信。 ・個別の学校見学の受入をPRしていくか検討が必要。(昨年度1人から、今年度は9人(中3生3人、中2生3人、中1生3人)と急増したため。) |
| | | ・本校の特色を生かした教育活動の充実が図られたか。 | ・U-KI50以上(内容のまとまり(単元等)あたりで、生徒が端末等を活用している授業の割合が50%以上)を目指す。 | ・Chromebook端末の活用研修に3名以上参加する。 ・ICT支援員や外部講師による職員研修を行い、アプリ等の利活用方法を学ぶ。 ・学期ごとに、教師のICT及び生徒の端末の活用調査を行う。 | | A |

| 評価項目 | | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
|------|---------------------------------------|---|---|---|--|--|
| 大項目 | 小項目 | | | | | |
| | 地域に根ざし、地域一体となった学校を目指し、開かれた学校づくりに取り組む。 | <p>・保護者や同窓会、地域等と協働し、充実した学校行事ができたか。</p> <p>・教育活動の公開の促進は図れたか。</p> | <p>・最も大きな行事であるマリンフェスタと秋桜祭にできるだけ多くの保護者に参加していただく。</p> <p>・マリンフェスタや秋桜祭でグッズ販売を行い、同窓会を身近に感じられる取組を行う。</p> <p>・HPの累計アクセス数を25万件以上にする。</p> <p>・倉岳校の情報を地域に発信し、地域住民に学校をより一層理解してもらおう。</p> | <p>・予定を早めに伝えるとともに、内容の充実を図る。さらに、感染症対策に十分留意しつつも、可能な限り人数制限等は設けず、生徒の家族が行事に参加できるようにする。</p> <p>・マリンフェスタではポロシャツの販売を行い、秋桜祭においては、新たにグッズを作成し販売するなど生徒や保護者に同窓会を身近に感じてもらえるようにする。</p> <p>・HPの更新を週1回以上の頻度で行い、授業や学校行事をはじめとする学校生活の様子を動画で発信する。また、学校行事の更新の他にも、ゆるキャラのページを定期的に更新するなど魅力的なコンテンツを発信する。</p> <p>・内容を見直すとともに、SDGsのページを作り、授業や委員会活動などで行っている取組を発信する。</p> <p>・倉校新聞(年5回発行)を市政だよりにはさみ、倉岳町内の全世帯(約1000世帯)に配付するとともに、近隣中学校の各学級に配付し、掲示してもらおう。</p> | A | <p>・マリンフェスタでは前日と当日の準備、秋桜祭では育友会バザーを通して保護者と協力して行事を盛り上げることができた。各行事に多くの保護者に参加いただき、事後アンケートでも生徒が頑張る姿を評価していただいた。</p> <p>・同窓会活動ではマリンフェスタでのポロシャツの販売、秋桜祭で開校70周年記念タオルの販売を通して同窓会の取組を支援できた。特に開校70周年記念タオルは保護者のみならず、地域の教育機関などにも多数購入いただき、同窓会を通じて学校をPRすることができた。</p> |
| | | 生徒の基礎基本の定着と学力の向上に取り組む。 | <p>・各定期考査で欠点を1科目以上保有した生徒が目標を下回ったか。</p> <p>・各定期考査前の1日の平均学習時間で、3時間以上だった生徒が目標を上回ったか。</p> | <p>・定期考査での欠点保有者数10人未満を目指す。</p> <p>・考査前平均学習時間3時間以上を、全生徒が年間1回以上達成する。また、全5回達成者50%以上を目指す。</p> | <p>・全校集会等で学習時間の状況や定期考査での欠点保有者数等について提示し、生徒の学習意欲を高める。</p> <p>・生徒が考査前の学習を計画的に取り組めるように、学習時間調査を考査2週間前から実施する。</p> <p>・学習時間調査の結果を考査終了後1週間以内にまとめ、全職員で共有する。</p> | B |

| 評価項目 | | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
|------|---------------------|--|--|--|----|--|
| 大項目 | 小項目 | | | | | |
| 学力向上 | | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的な読書の推進が図られたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・1月末までの生徒一人当たりの貸出冊数6冊以上を目指す。 ・4科目以上の授業での図書室や資料の活用を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・図書だよりを年間3回発行する。 ・朝読書が習慣となってきたので、生徒個人の読書記録簿を随時確認して声かけ等を行い、さらに活性化させる。 ・図書購入を進め、蔵書の充実を図る。 ・各教科の調べ学習等でも図書室を利用してもらえるよう、呼びかける。 ・生徒たち自身がおすすめの本を紹介し合うコーナーを設置し、読書活動を支える。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・1月末時点で、生徒一人あたりの貸出冊数は7.2冊、図書だよりは、年度末までに第3号を発行する予定である。 ・生徒たちに読書記録簿を持たせているが、声かけや記入状況確認はできていなかった。 ・県立図書館から本の借用し、生徒の利用に供しているが、購入は進んでいない。 ・各教科・科目での図書室利用は3科目となった。生徒だけでなく職員に向けての呼びかけもまだ必要である。 ・生徒たちがおすすめ本を紹介する企画は実施することができた。 |
| | 職員の学習指導の工夫・改善に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーティーチャーの活用または近隣高校への授業見学の回数が目標に達したか。 ・倉岳校版学びのスタンダード『マナスタ』チェックリストの結果が上昇したか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーティーチャーの活用または近隣高校への授業見学を各教科で年間1回以上を目指す。 ・倉岳校版学びのスタンダード『マナスタ(生徒編)』のNo.4「振り返り」、No.9「わからないことを尋ねる」、No.15「積極的な発表」に関するチェックリストの比較において、肯定的な数値の上昇を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーティーチャーを含む各県立高校の公開授業を適宜案内するとともに、高教研の各部会主催の研究授業も含めた授業見学の回数を年度末に調査する。 ・『マナスタ』チェックリストを年3回(6月、10月、1月)実施し、その結果を全職員で共有する。 ・学びのUD通信を発行し、数値上昇につながるような取組を紹介する。 ・1学期の校内公開授業期間、2学期の公開授業週間の際は、各1回以上授業見学を行うようにし、授業の改善と充実を図る。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・校外への授業見学は、保健体育科の3回。オンライン配信の授業や一人一台端末活用授業の視聴者3名。 ・『マナスタ』チェックリストを6月と11月に実施。No.4は11ポイント程度低下、No.9は12ポイント程度上昇、No.15は6ポイント程度低下。結果の共有が不十分だった。 ・学びのUD通信は、人間関係づくりをテーマとした第2号までの発行にとどまり、授業づくりのヒントとなる取組の紹介はできなかった。 ・5月に校内公開授業期間、10月に公開授業週間を実施。特に公開授業週間では、2回以上の授業見学を行うようにしたため、活発な授業見学が見られた。 |

| 評価項目 | | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
|--------------|----------------------------|---|---|---|----|---|
| 大項目 | 小項目 | | | | | |
| 進路指導（キャリア教育） | 基礎学力の向上を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力講座及び個別指導の充実が図れたか。 小論文指導の充実が図れたか。 対外模擬試験等の受験が学力向上につながったか。 | <ul style="list-style-type: none"> 本年から朝課外を中止し、放課後に10分間の基礎学力講座を設定した。また、3年生の大学進学希望者に対して、個別指導を総体後から2コマ設定し、志望校合格を目指す。 受験科目に小論文が課せられる生徒に対して、文章力の向上を目指す。 共通テスト受験者を中心に数多くの模擬試験を経験させ希望進路への合格を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力講座では、各学年に最適な教材を用い、1年間で何回も学習することで基礎学力を定着させる。個別指導も、各教科担当者と協力し、毎日1～2教科実施する。長期休業中も毎日実施して学力を定着させ志望校合格を目指す。 身近な話題を中心に朝コラムを作成し、それを担任が添削することで文章力を向上させる。受験科目に小論文がある生徒には、個別指導の2コマ目に小論文講座を設け、集中的に指導する。 共通テスト模試を受験させその結果を分析し、良い分野は伸ばし、苦手分野は個別指導で力を付けさせる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力講座では1、2年生で市販の教材を購入して取り組み、3年生は自分の進路に合った教材を用い、学習に取り組むことができた。個別指導についても、平日用の時間割を毎月改定し、各教科を均等に実施し、長期休業中も、前期・後期に分け実施し、学力育成ができた結果、熊本県立大の自己推薦型選抜で1名合格することができた。共通テスト受験者については直前まで個別指導を実施し、合格を目指している。 毎週金曜日に「朝コラム」を実施・継続し、文章の表現力を身に付けさせている。 3年生の共通テスト受験者に対し、15回の模試を実施している。 |
| | 進路意識の高揚と、進路決定100%に向けて取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> 3年生の進路目標が達成できたか。 2年生は希望進路について、各自の具体的な進路目標を設定することができたか。 1年生は就職と進学の進路の希望が決定できたか。 「キャリアパスポート」を各行事で活用できたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 3年生の進路希望を100%実現する。 2年生は具体的な進路志望先を定めることができる。 1年生は進路希望の方向性（就職・進学など）を定めることができる。 「キャリア・パスポート」の記入欄にすべて記入させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 進路指導部会で、3年生の希望進路について情報を共有し、その対策について協議・検討する。 3年生の受験方法を見据え、3学年や各教科と連携して個別指導の計画を立て、全職員で受験指導、小論文指導及び面接指導を行う。 学力進路検討会を各学年、年間2回以上実施し、全職員で生徒の学力や適性の分析を行う。 学年と連携し、年3回以上の個別面談を実施し、生徒に必要な進路情報を伝える。 「キャリア・パスポート」の記入状況を行事ごとに進路部職員で確認する。また、講演会の欄にメモ欄を設定したので、講演会の内容がメモできているかも併せて確認する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 就職は、2学期の段階で自衛隊を含め、順調に決定した。進学は自己推薦型により2名が合格した。残りの2名の生徒は共通テスト受験者であり、共通テスト後も二次試験に向けて、学習を取り組ませていく。 学力進路検討会は夏期休業中に2回実施し、全職員の共通理解が図れた。3学期に3年生の進路状況も含め、1、2年生の進路希望に対して、共通理解を図る。 学期始めに行われている面談週間では、面談結果に応じて必要な進路情報は伝えてきた。 「キャリア・パスポート」について、生徒のメモ力は向上していない。また、進路部職員による「キャリア・パスポート」の確認も十分にできていなかった。 |
| | 社会接続支援の充実に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力を育成できたか。 進路決定後の指導が十分行えたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 進学及び就職試験での面接において、自分の考えを論理的に伝えることができる。 社会人としてのルール・マナーを実践することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 面接に対応するためのプリントを作成し、生徒に配付する。これをもとに3年生では年間を通し、2年では3学期から模擬面接を実施する。また、事前に面接問題例を配付し、応答を考えさせる。その後全職員で模擬面接を行う。 新社会人セミナーを実施し、名刺交換や電話対応などの社会人としてのマナーを身に付けさせる。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 3年生は、昨年度3学期から面接のマニュアルを配付し、少しずつ面接練習を行い、受験まで継続して指導した。まず学年を中心とした指導から行い、夏期休業中から受験まで、全職員で面接指導に当たった。2年部にも面接マニュアルを渡している。 今年度も2月の登校日に新社会人セミナーを計画しており、進学希望者についても将来就職したときに苦勞しないように、社会人としてのマナーを身に付けさせる。 |

| 評価項目 | | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
|------|-------------------------|--|---|---|----|--|
| 大項目 | 小項目 | | | | | |
| 生徒指導 | 礼節を重んじた基本的生活習慣の確立に取り組む。 | ・「倉岳校生活規律訓」に則った規律ある生活が送れているか。 | ・生徒の自己評価アンケートで「生活規律訓」の各項目においてA・B評価90%以上を目指す。 ・服装頭髪検査において再検査者0を達成し継続する。 | ・全校集会等で「生活規律訓」の内容について話し、生徒が自らの生活と照らし合わせて生活規律訓に則った生活の継続及び改善に向けて考える機会を設ける。 ・日頃から全職員で細やかな指導を行い、服装頭髪検査前には各クラスで事前指導を徹底する。 | C | ・6項目のうち3項目(掃除・時間・服装)においてA・B評価の割合が90%を越えた。その他の3項目では、挨拶(68%)、話を聞く態度(82%)、進路達成への取組(86%)であり、挨拶ができていないと考える生徒が各学年にいた。全ての項目においてA・B評価90%以上とするためには、日頃の指導はもとより、全職員で一貫した指導の充実が必要であると感ずる。 ・服装頭髪検査では、昨年度に比べると再検査者は減少傾向にある。しかし、一部の生徒が再検査対象となり、再検査者0の月はなかった。今後も、日頃から全職員で細やかな指導を徹底していきたい。 |
| | 自ら考え、行動できる人間の育成を図る。 | ・よりよい学校を作るために全ての生徒が尽力しているか。 ・規範意識を持って生活を送っているか。 | ・生徒の学校評価アンケートで、「生徒会活動が活発である」のA・B評価90%以上を継続する。 ・年間を通して特別指導件数を0にする。 | ・よりよい学校づくりを目指し、各委員会で少なくとも1つは新しい取り組みを行うよう促す。 ・全職員で細やかな指導を行い、生徒の小さな変化に対しても担任及び学年職員と情報共有し問題行動の未然防止を図る。 | | A |

| 評価項目 | | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
|---------|--------------------------|--|---|---|----|--|
| 大項目 | 小項目 | | | | | |
| | 社会に通用する人材の育成を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動の推進が図られたか。 交通安全教育の推進が図られたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 校外のボランティア活動等に、全校生徒がそれぞれ1回以上参加する。 交通事故、交通違反の件数0件を継続する。 | <ul style="list-style-type: none"> 毎朝の美化ボランティア活動の推進による習慣化と、校外ボランティア活動への呼びかけを積極的に行う。 交通規範意識向上のための交通講話や登下校指導を実施する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 毎朝の清掃ボランティア活動には、2学期終了時点でのべ1,500人の参加状況となっており、多くの生徒が毎朝清掃に取り組み、環境美化に貢献することができた。校外ボランティアでは、新型コロナウイルス感染症の影響から少しずつ取組も再開され、「第1回笑顔くらんたけ交流会」運営補助や「まるちゃんちボランティアスタッフ」に生徒会執行部を中心に参加することができた。 外部講師を招いて交通講話を実施し、交通事故時のドライブレコーダー映像を用いた話は、危険予知に対する思考を深めることができた。また、各学期に下校指導を行い、交通安全を呼びかけた。2学期終了時点で、交通事故及び違反件数は0件である。 |
| 人権教育の推進 | 互いの人権を尊重しあう心の教育の充実に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> 人権教育の推進が図られたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 人権教育推進委員会を年3回以上開く。 全職員が校外研修や人権関連行事に年1回以上参加する。 校内での職員研修を年2回以上実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> 各学期に人権教育推進委員会を開き研修や人権LHRの充実、情報の共有を図る。 校外研修や人権関連行事の情報提供を行い、積極的な参加を促す。 人権教育主任又は外部講師による職員研修を実施する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 人権教育推進委員会を各学期に1回開き、情報共有や意見交換をしながら研修や人権LHRの充実に取り組むことができた。 ほぼ全ての職員が校外研修や人権関連行事もしくは人権啓発Web講座を活用し、研修を行った。 |
| | 命を大切にすることを育む指導の充実に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> 命を大切にすることを育む指導の充実が図られたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 命を大切にすることを育むための授業を年10時間程度実施し、「命」や「夢の実現」「ストレス対処」「薬物乱用防止」「救急法」についての学習を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> 各学年、教科と連携し、各学年別単元(ユニット)を構成して、計画的に指導を行えるようにする。 年度初めと年度末にアンケートを実施し、人権教育推進委員会で結果の分析を行う。その後職員会議等で生徒の「命」に対する考えや、ユニットを通しての変化を全職員で共有し、次年度の指導に生かす。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で規模を縮小したり、中止になったりした行事もあったが、年度当初に学期ごとの取組を構成し、先の見通しを立て計画的に指導することができた。 年度末のアンケートは3学期の人権LHR後に実施予定であり、結果を分析して生徒の実態を把握し、次年度の指導に生かしていく。 |

| 評価項目 | | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
|---------------------|---------------------------------------|----------------------|--|---|----|--|
| 大項目 | 小項目 | | | | | |
| いじめの防止等 | いじめ防止基本方針に則った活動を遂行し、いじめのない学校づくりを推進する。 | ・いじめの未然防止が図られたか。 | ・職員研修(生徒理解含む)を年3回以上実施し、職員での共通理解を図る。 ・生徒の学校評価アンケートで「先生方に気軽に悩みを相談できる」のA・B評価80%以上を目指す。 | ・研修の復講等を通して全職員の意識向上を図る。 ・面談予約システムを運用し、誰もが気軽に職員へ相談できる環境を整える。 | B | ・職員研修「いじめ防止」を8月に実施し、いじめの定義や事例を用いて全職員で理解を深めることができた。また、いじめ問題に対する対応についても再確認することができた。 ・悩みを相談できるのA・B評価が昨年度の76%から12ポイント落ち、64%と低い結果となった。令和2年度は46%と以前は50%を切る状況だったため、以前と比較すると改善傾向にはある。教員以外でもよいので、全校生徒が相談できる人が一人はいるという状態は維持しなければならない。また、面談システムなど気軽に相談できる環境を確立したい。 |
| | | ・いじめの早期発見の取組が図られたか。 | ・こころのアンケート調査を年3回以上実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。 | ・各学期(7月・12月・2月)にアンケートを実施し、結果を基にいじめ対策委員会で協議し、必要に応じて該当学年職員及び生徒指導部職員等で面談を行うなど、組織的に早期対応する。また、いじめ匿名サイト「スクールサイン」を全生徒活用できるように指導する。 | A | ・各学期に1回こころのアンケートを実施し、アンケート結果をもとに、校内いじめ対策委員会で情報の共有及び協議を行い、いじめ事案に対する聴き取りや対応等を全職員で協力して速やかに行うことができた。また、いじめ匿名サイト「スクールサイン」の使い方を全校生徒に説明し、必要に応じて活用できるようにした。今年度の投稿はなかった。 |
| 地域連携(コミュニティ・スクールなど) | 学校行事における地域との交流の推進に取り組む。 | ・各年代との交流を深めることができたか。 | 学校評価アンケートの地域交流に関する項目において、「地域の方々との交流を通して地域をより理解できた」と回答した生徒の割合を80%以上にする。 | ・近隣の幼保小中行事や老人会、婦人会などとの交流行事を年間4回以上実施する。実施時には担任を始め、教師から地域のリーダーとしての自覚を持たせるための声かけを行い、主体的に参加させる。 | B | ・「地域の方々との交流を通して地域をより理解できた」と回答した生徒の割合は77%であった。保育園実習、保中高合同避難訓練、合同ボランティア、倉岳校福祉の日、婦人会との交流会(2月実施予定)など多くの地域交流の行事を実施することができた。実施に当たり、生徒に様々な役割を与えながら全ての生徒が充実感を得られるようにすることを今後の課題としたい。 |
| | 地域の行事やボランティア活動に積極的に参加する。 | ・地域連携の組織作りができたか。 | ・地域行事やボランティア活動への参加を生徒及び職員併せて年間5回以上行う。 | ・昨年度までコロナ禍の影響により地域行事やボランティア活動がほぼ実施されなかったため、具体的活動内容を示した募集案内を作成し、参加を促す。 | B | ・ボランティア募集の数は依然少ない状況だが、「第1回笑顔くらんたけ交流会」運営補助や「まるちゃんちボランティアスタッフ」等に生徒会執行部の生徒が中心となって参加した。また、幼保小中高合同清掃ボランティア活動に全校生徒、職員で参加し、地域の美化活動に取り組むことができた。今後、ボランティア募集数が増えれば、生徒会執行部のみではなく、全校生徒、職員で参加する機会を増やしていきたい。 |

| 評価項目 | | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
|---------|-----------------------------|--|--|---|----|---|
| 大項目 | 小項目 | | | | | |
| | 総合型コミュニケーション・スキル | 学校運営協議会からの意見に対し、改善を図れたか。 | 学校運営の基本方針に係る教育活動の計画等に関する協議を充実する。 | ・学校運営協議会を年2回開催し、本校の教育活動について検討する。 ・本校の教育活動の現状を把握するため、在校生、保護者、本校職員への学校評価アンケートを実施する。 | B | ホームページの改善等学校運営協議会でいただいた意見は、教育活動改善に生かすことができた。また、学校評価アンケートを実施し、そこで出た評価をもとに各部の反省を行った。 |
| | 心身ともに自己管理ができる生徒を育成する。 | ・心身の健康に対する意識が高まったか。 | ・心身の健康に関する講演会後のアンケートにおいて、「内容を理解できた」の回答を98%以上にする。 ・ストレス対処教育講話を開催し、自己管理能力を養う。 ・スクールカウンセラーによる面談を実施し、自身の健康を維持・向上させていく姿勢・力を育てる。 | ・心身の健康に関する講演会を年3回以上実施し、生徒の理解度確認のためのアンケートを実施する。 ・生徒保健委員と連携し、健康への意識向上のため保健だよりを年5回発行する。 ・ストレス対処教育講話を学年ごとに1回ずつ実施する。 ・担任との連絡を密にし、カウンセリングの必要な生徒に、確実に面談の機会を設ける。 | A | ・心身の健康に関する講演会を4回行い、多方面から意識を高めることができています。理解度アンケートの平均値は95.9%であった。 ・保健委員と連携して保健だよりを年5回発行できた。 ・学年ごとに実施したストレス対処教育講話で学んだことを、生徒たちは生活の中で生かしている。 ・担任との連絡をとりながら、必要な生徒にはSCやSSWと面談の機会を設けている。 |
| 保健・安全管理 | 安全管理を徹底し、事故を未然に防ぐ。 | ・安全点検により事故を未然に防げたか。 | ・安全点検を年間3回実施し、事故件数0を継続する。 ・環境調査を行い、環境の整備を行う。 | ・長期休業中に全職員で安全点検を実施する。 ・生徒保健委員と連携し、水質や照度、二酸化炭素濃度、ダニアレルゲン等について環境調査を行う。 ・全校生徒を対象に、学校環境についてのアンケートを行う。 | A | ・安全点検は年間3回実施し、事故件数も0である。 ・保健委員と連携し、各種環境調査を行っている。二酸化炭素濃度計測器は常時教室に設置していることから、全校生徒の関心も高くなっている。 ・環境アンケートについて、補修が必要な箇所は年度末までに改善する予定である。 |
| | 良好な人間関係を構築するための態度やスキルを育成する。 | 互いの良さや違いを認め合い、安心して自分を表現できる人間関係を構築できたか。 | ・高等学校における「学びのユニバーサルデザイン」構築事業の活動を継続して行い、よりよい人間関係を構築する力を育てる。 | ・全校集会・LHRにおいて「人間関係づくりワークショップ」を通年で計画的に実施し、事後アンケートを行い、コミュニケーション能力についての意識の変化を測る。 | B | ・「人間関係づくりワークショップ」は計画的に実施でき、生徒たちも興味をもって積極的に参加していた。短時間ではあるが、実際にロールプレイすることによって、各生徒が回ごとに気づきを得ていた。しかし、実生活で十分に活用できているとはいえない部分もあった。 |

| 評価項目 | | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
|------------|---------------------------------------|------------------------------|---|--|----|---|
| 大項目 | 小項目 | | | | | |
| | 防災教育及び災害時の自助、互助公助の精神を養う。 | ・災害時の避難場所や避難経路を正しく理解できたか。 | ・避難訓練を年間3回以上実施し、生徒及び職員の防災意識を高める。 ・訓練後のアンケートにおいて「災害時の避難場所や避難経路を正しく理解できた」、「防災についての学びを深め、防災意識を高めることができた」の2項目を達成した生徒の割合を100%にする。 | ・地震の避難訓練を2回、火災の避難訓練を1回行い、生徒の防災意識を向上させる。予告なしや教師がいない時に避難させるなど工夫する。 ・職員研修を実施し、職員の防災意識を向上する。 ・訓練後に防災主任から防災講話やワークショップを行い、生徒の防災意識を高める。 | A | ・地震避難訓練を2回、火災避難訓練を1回実施することが出来た。特に火災避難訓練では予告なしで実施し、より実践的な訓練を行うことが出来た。 ・「災害時の避難場所や避難経路を正しく理解できた」、「防災についての学びを深め、防災意識を高めることができた」生徒の割合は100%であった。また、訓練後にはマイタイムラインの作成や屋内消火栓の使い方に関する講習など生徒のみならず、職員も一緒に取り組むことができ、生徒、職員の防災意識が向上した。 |
| 特別支援教育 | 特別支援教育の充実と支援体制を確立する。 | ・特別支援体制の確立ができたか。 | ・個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と、一人一人の教育的ニーズ等に応じた合理的配慮の提供を行う。 | ・作成した個別の教育支援計画及び個別の指導計画を全職員で共有するための時間を確保する。 ・生徒への対応の仕方や合理的配慮等について、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、巡回指導員より助言を受け、職員で共通理解を図り支援にあたる。 | B | ・個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成し、全職員で共通理解をもち、支援を行っている。 ・対人関係で困り感のある生徒は、SC面談での助言を実生活に生かしている。 ・SSWからの助言は、関係職員で共通理解を図り、支援にあたっている。 |
| 業務改善・働き方改革 | 教職員が健康で公私ともに充実した人生を送ることができるよう体制を整備する。 | ・働き方改革に係る環境整備と教職員の意識改革ができたか。 | ・教職員の勤務時間外在校時間を年間平均月45時間以内にすする。 ・年間15日以上有休取得を目指す。 | ・月1回の定時退勤日、夏季休業中の学校閉庁日(4日間)を設ける。併せて、部活動や個別指導がない日は積極的に定時退勤を行うように声かけを行う。さらに、時間外勤務時間が長い職員には、個別に助言等を行う。 ・「部活動に係る活動方針」に基づき、適正な練習時間を遵守し、指導の分担等を進める。 ・業務の見直しを行い、「各分掌の1業務削減」に取り組む。 | B | ・昨年度同様月1回の定時退勤日、8月12日(金)～15日(月)を学校閉庁日、部活動は、水曜日と休日の土日少なくとも1日を休養日としている。 ・12月末現在、教職員の勤務時間外在校時間の平均は月41時間44分(昨年度43時間42分)である。昨年度より約2時間削減していることから、働き方改革への取組はより進んでいると考えられる。 |

| 評価項目 | | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
|---|-----|-------|-------|-------|----|-------|
| 大項目 | 小項目 | | | | | |
| 4 学校関係者評価 | | | | | | |
| <p>(1) 学習指導について、小規模校の特色を活かし生徒一人一人を大事にされた丁寧な指導、取組の様子が感じられた。学校行事等もコロナ禍の中、様々な工夫や感染対策を行い、安心して生徒が様々な体験ができるような取り組みがなされており、アンケート結果にもあるように生徒達も楽しんで学校生活を送っているのがわかった。</p> <p>(2) 生徒・保護者向けアンケートの結果から、教育活動に対して評価の高いものが多く、教職員の工夫や努力、前向きに取り組む姿勢が感じられ、充実した教育活動が実践されている。</p> <p>(3) ホームページのアクセス数も多く、学校新聞を倉岳町内に配付する等情報発信もしっかり取り組んであり、学校や生徒の様子がよく伝わって良い。</p> <p>(4) 学校評価アンケート「先生方に気軽に悩みを相談できる」についても生徒の悩みの早期発見に努めている点は感じられるが、さらなる工夫・改善に取り組んでほしい。</p> | | | | | | |

| | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|
| 5 総合評価 | | | | | | |
| <p>(1) 学習指導に関しては、生徒用端末や電子黒板等のICT機器を積極的に取り入れた授業を展開し、わかりやすく工夫された授業を実施することができた。また、指導教諭を招聘して職員研修を実施し、機器を有効に活用した授業計画の作成にも取り組んだ。今後、さらに授業の中で機器を取り入れる場面の工夫・改善と生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成につながる端末の利用に取り組んでほしい。</p> <p>(2) 計画された進路関係の行事もほとんど実施でき、卒業後の職業観や進路意識の高揚を十分図ることができた。3年生の進路状況では、3年ぶりに国公立大学合格者が出るとともにほとんどの生徒が希望進路を達成できた。1・2年生についても具体的な進路希望先や方向性を定めることができたが、今後も面談等により、生徒・保護者と共通理解をしていくことが大切である。</p> <p>(3) いじめの未然防止に向けて職員の共通認識のもと組織的かつ計画的に取り組むとともに、アンケートを基に早期に的確な対応を行った。今後も生徒の小さな変化に気づくとともに、教職員へ相談しやすい雰囲気作りと適切な対応に取り組まなければならない。</p> <p>(4) 感染防止に留意しながら昨年度以上の地域と連携した行事を行い、地域に信頼され、期待に応えられる学校づくりに取り組んでいることは評価できる。</p> <p>(5) 生徒募集に係る説明や体験入学案内ポスターの配付、学校新聞・ホームページによる発信等を通して、本校の特色や学習活動・学校行事の様子、入学後の生徒の変容等を広く周知することができた。</p> | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|
| 6 次年度への課題・改善方策 | | | | | | |
| <p>(1) 多様な学力や特性のある生徒に対して、学力や生活習慣の基礎・基本の定着や良好な人間関係の構築に向けた指導の工夫・改善に取り組み、生徒が安心して学校生活を送れる環境作りを進める。また、「わかる」授業を構築するため、適切なICT機器の利用や生徒用端末活用による話し合いや学び合いの活動のさらなる充実に取り組み、各教科での学習内容の理解が深まるような授業構築を目指す。</p> <p>(2) 外部組織や団体を活用して、進路意識の高揚と適切な進路選択、自己実現に向けての努力ができるように情報提供するとともに、生徒が意欲的に進路目標達成に行動し、その実現に向けて積極的に取り組むことができるようにする。また、生徒一人一人の学力の実態に応じた学習指導（基礎学力講座・個別指導を含む）を工夫・改善して行き、学力の向上と進路希望の実現につなげる。</p> <p>(3) 生徒自ら挨拶や服装・態度など生活規律を正しく維持できるように、生徒・職員の共通理解のもと指導を行っていく。また、情報モラル教育の充実、学校における言語環境の整備、他者への理解、相談体制の充実等を通して、いじめ防止と安全・安心な学校づくりを推進する。</p> <p>(4) 豊かな心を育むために校種や世代を超えた交流により体験の幅を広げ、行事や活動を通して地域との連携をより進めるために日頃からの情報交換を密にして、地域に信頼される学校づくりをより一層推進していく。</p> <p>(5) 上記の取組等を通して魅力ある学校づくりをさらに進め、その成果を積極的にホームページ・学校新聞で発信し、入学者の増加を目指す。</p> | | | | | | |